

本書の刊行にあたって

日本作物学会用語委員会 委員長 松田智明

日本作物学会の常設委員会の1つである「用語委員会」は、2000年3月に、今井勝委員長のもとそれまでの『改訂 作物学用語集』（1987年刊）をかなり大幅に改訂して、日本作物学会編として『新編 作物学用語集』（養賢堂）を刊行した。その後、日本作物学会として「作物学用語解説集」刊行の必要性が指摘され、その具体化についての検討が用語委員会の主要な業務として取り組まれてきた。

同様の取り組みは関連学会においても同時進行的に行なわれ、いくつかは先行的に刊行されている。本用語委員会ではこれら先行的刊行物も参考にしながら、取り上げて解説すべき用語の選択や解説スタイル、体裁等について紆余曲折を重ねながら検討を進めた。その結果、先行した関連学会の用語解説集とは異なるまったく新しいスタイルの本用語事典の編集・刊行が決まった。

本用語事典は、作物学分野の研究や調査、教育を進めるうえで必要な基礎的用語や知識・知見などを解説するのが目的である。従来の事典（辞典）は、『生物学辞典』（岩波書店）や『熱帯農業事典』（日本熱帯農業学会編 養賢堂）、『植物育種学辞典』（日本育種学会編 培風館）などのように、数千におよぶ用語をそれぞれ数百文字程度で解説を加えるものが多かった。

これに対して本用語事典は、「〔イネ〕苗代と苗」、「〔畑〕栄養繁殖」（以上、「栽培」分野）、「〔イネ科〕幼穂の発育」（「成長」分野）などのような大項目を166立てて、関連する用語を、見開き2ページの中で解説するスタイルをとった。こうすることによって、他の用語と関連づけながら理解することが容易になる。

本用語事典で解説する用語は、原則として『新編 作物学用語集』に掲載されているものとした。しかし、近年、『日本作物学会紀事』や『Plant Production Science』に頻繁に掲載されている新規の用語も加えることとした。解説用語は赤字で表記し、英語訳を併記した。また、解説用語とその英語訳を、それぞれ「和名索引」、「英和索引」（英名と和名を併記）として索引を作成した。用語によっては複数の解説ページが示されており、多面的な理解が可能になっている。索引には、本書で取り上げた作物、雑草の「学名索引」も収録しているので、あわせて利用いただきたい。

なお、用語の解説内容は必ずしも学会誌等でオーソライズされたものばかりではないため、項目の最後に執筆者名を入れることとした。

166の大項目を「栽培」、「成長」、「形態」、「生理」、「品種・遺伝・育種」、「作物」の6つの分野に分けた。各分野の編集は、本委員会の編集委員が担当した。「栽培」ではイネと畑、「成長」、「形態」ではイネ科とマメ科に大項目を分け、それぞれイネとダイズを取り上げて解説した。しかし、おもに他の作物やその栽培で用いられ、イネやダイズで説明できない用語については、「作物」分野の各作物で取り上げ、解説した。本用語事典で取り上げ

た用語数は、和名 3,646 語、英名 3,372 語、学名 307 語である。

本用語事典は、作物学分野および関連分野の研究や実務、教育に携わる若人をおもな読者対象にしている。大学の専門課程の学生、大学院生、研究・行政・教育機関などの若手職員がこれにあたる。しかし、用語を解説するということは、ある程度用語の意味を定義付けすることにもなるため、すべての作物学研究者の必携の書となると考えられる。また、現場の指導者や農家の方々にとっても作物の基本図書として便利に活用していただけるものと思う。

本用語事典の執筆・編集は日本作物学会の総力をあげて行なわれ、多くの会員等の協力のもと刊行のはこびとなった。「作物学用語集」と対をなす日本作物学会の基本的刊行物である。ご多忙の折、執筆にあられた会員各位には、心よりお礼申し上げます。

さいごに、本書の企画・編集にあたっては、社団法人 農山漁村文化協会にご努力いただいた。厚くお礼申し上げます。

2010 年 1 月